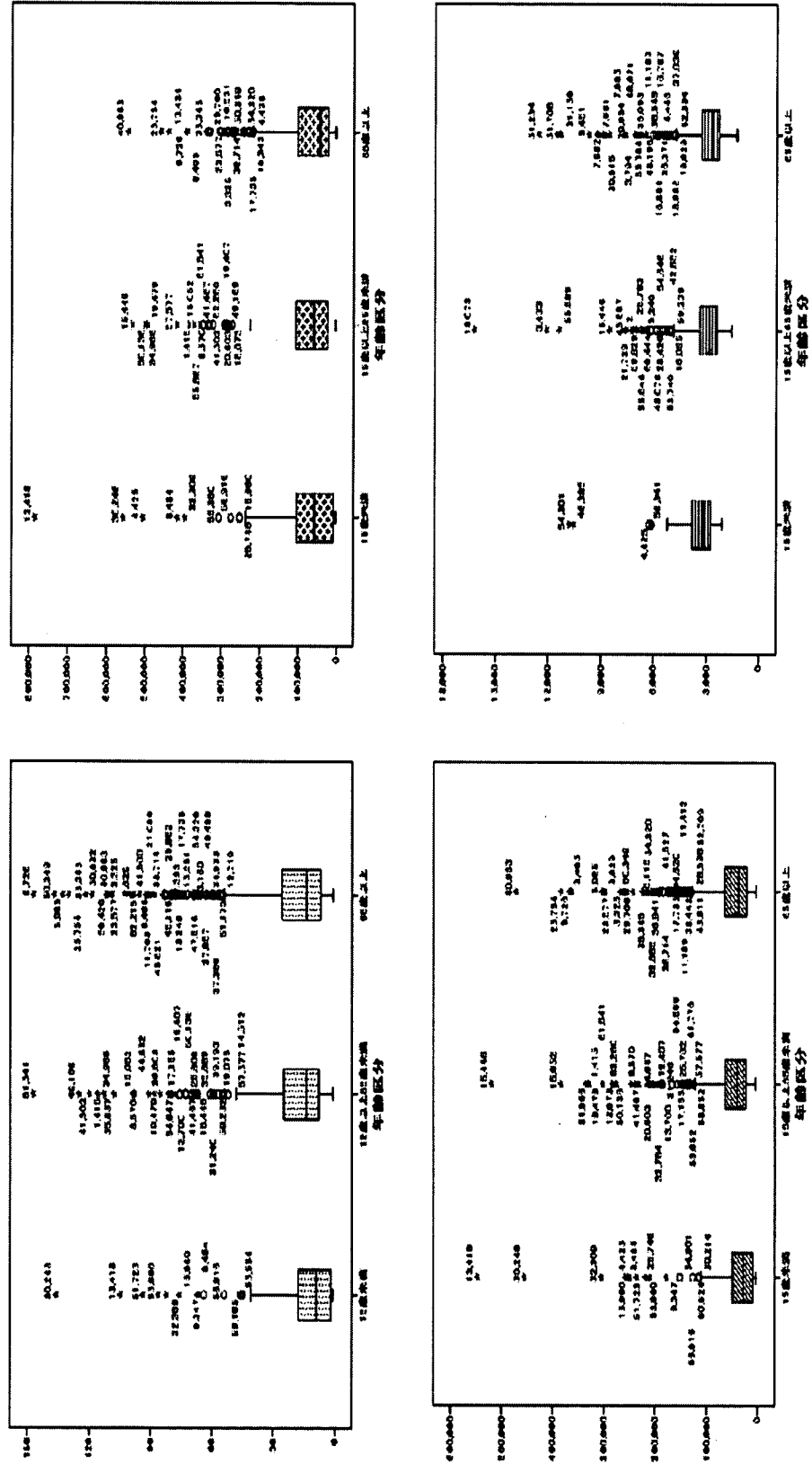
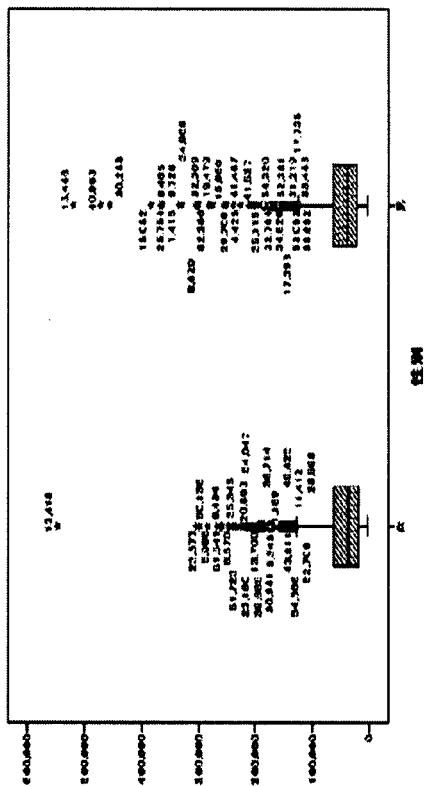
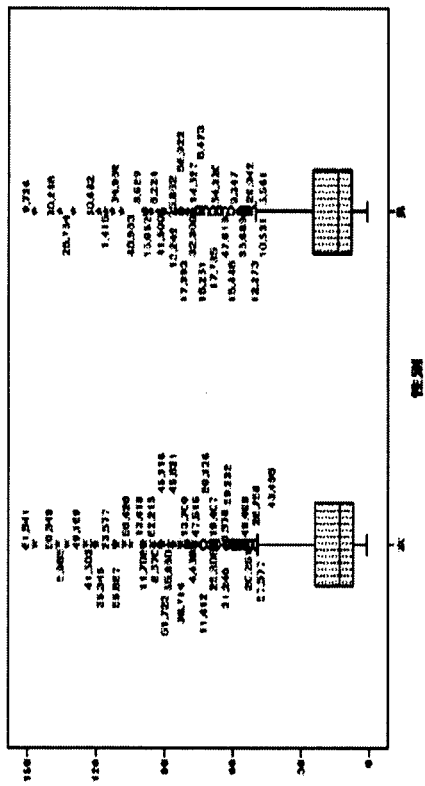
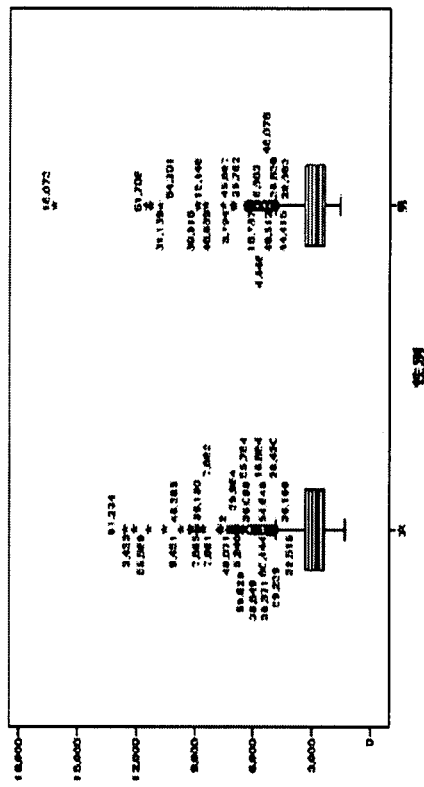
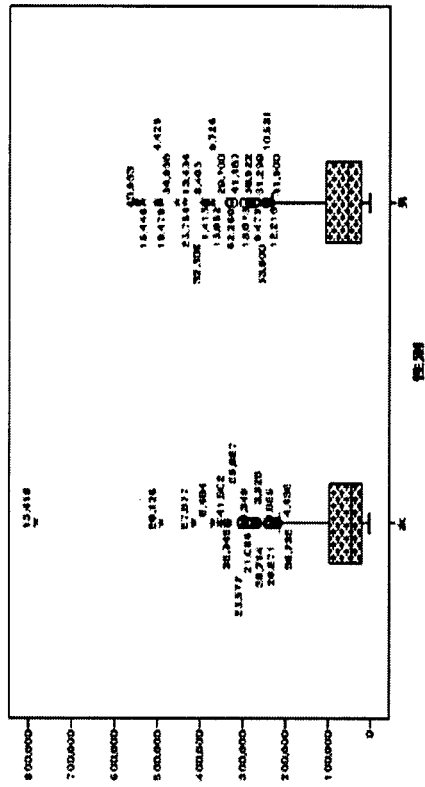


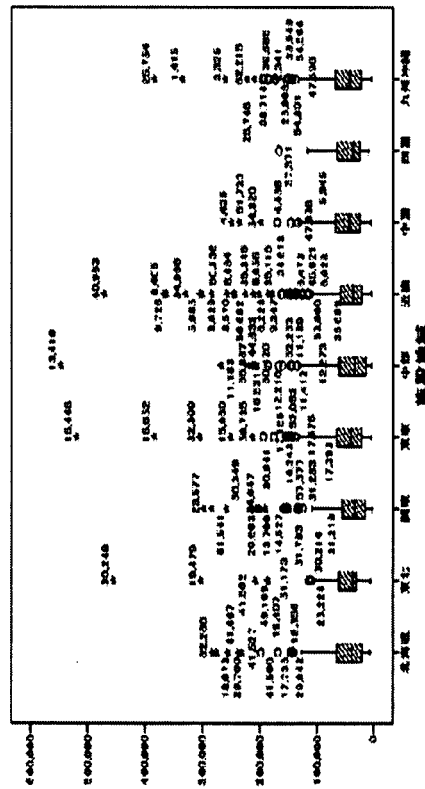
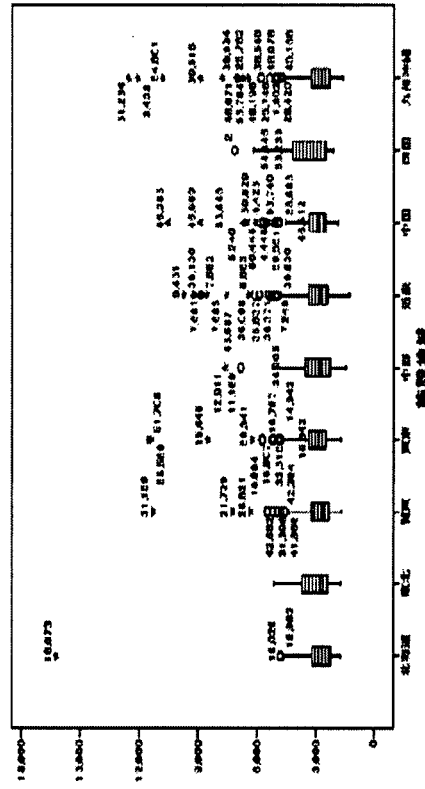
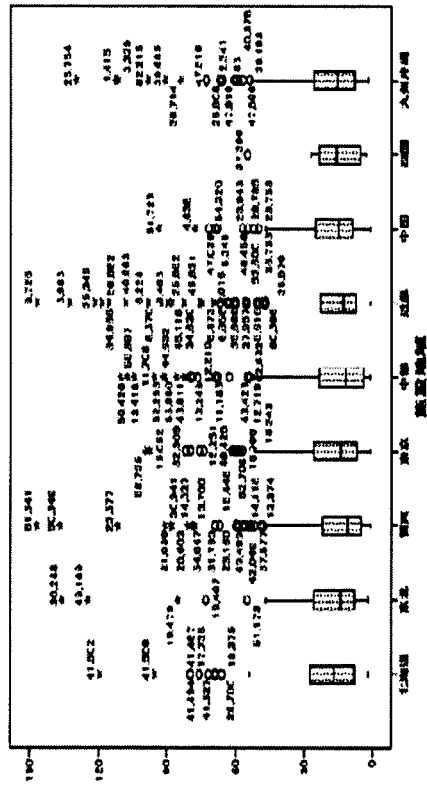
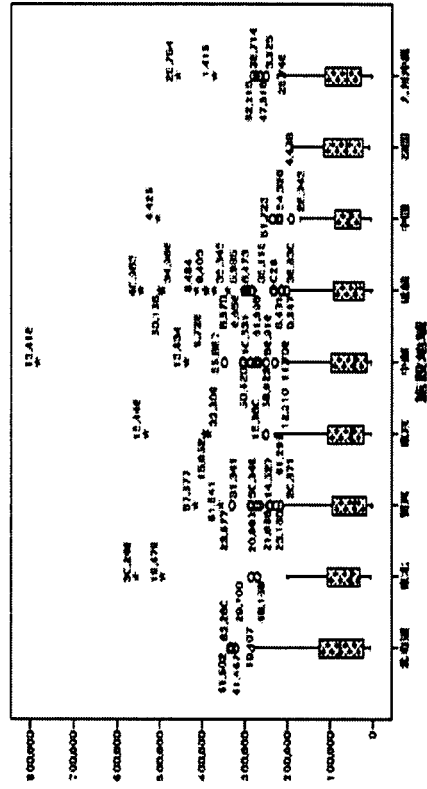
# 図B群(年齢)



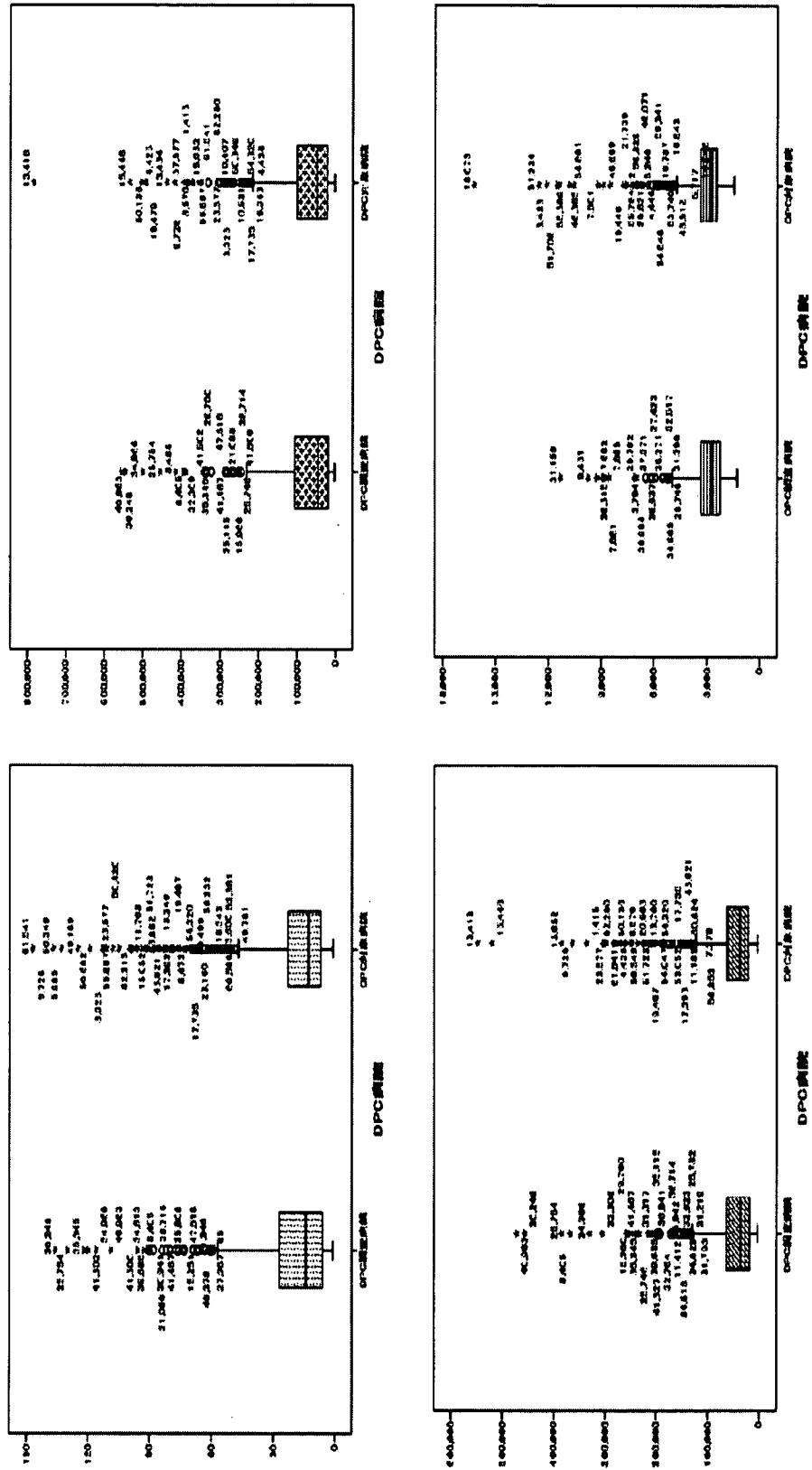
# 図B群(性別)



# 図B群(施設地域)

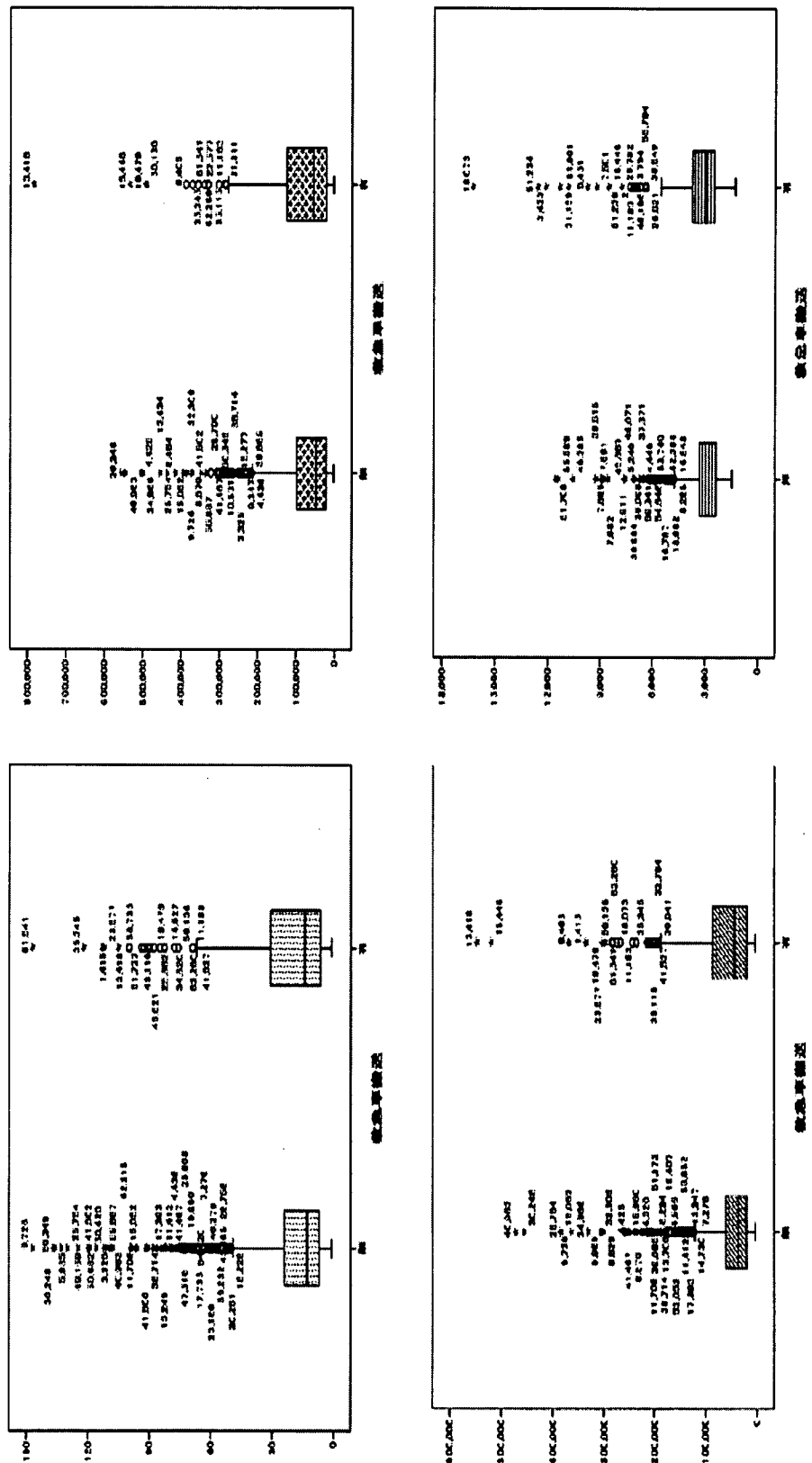


# 図B群(DPC病院)

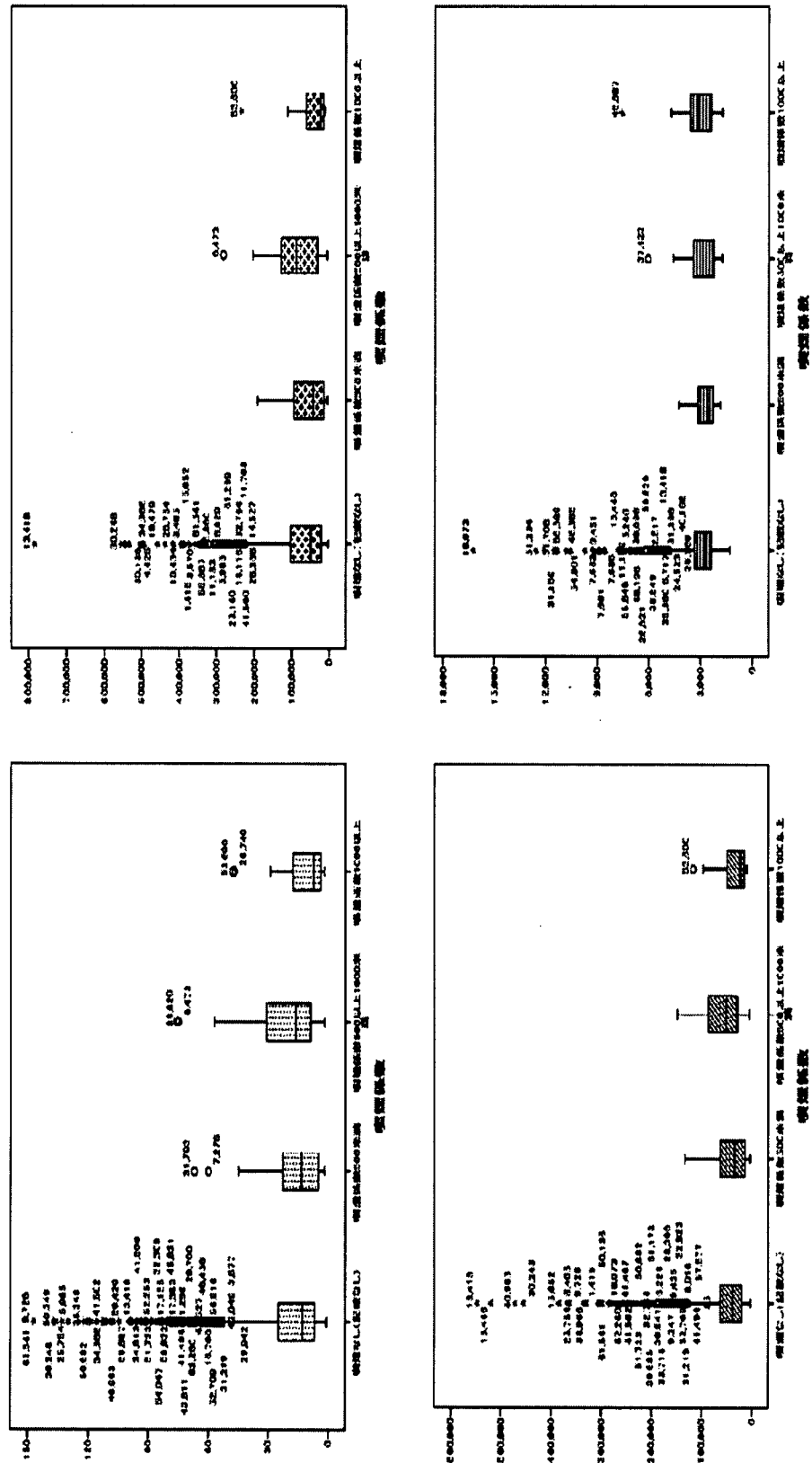




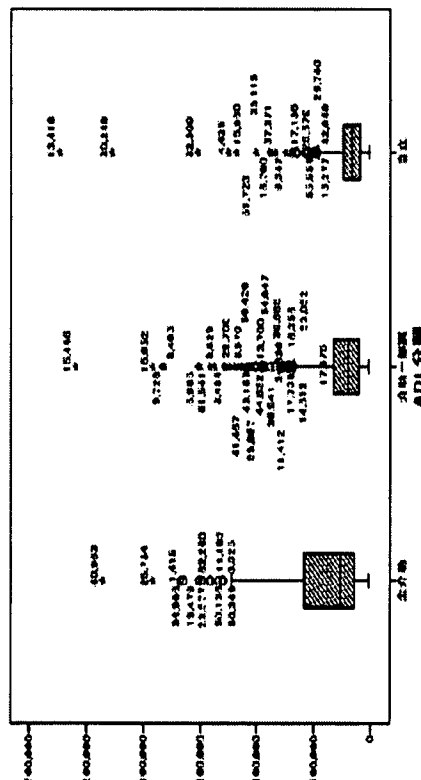
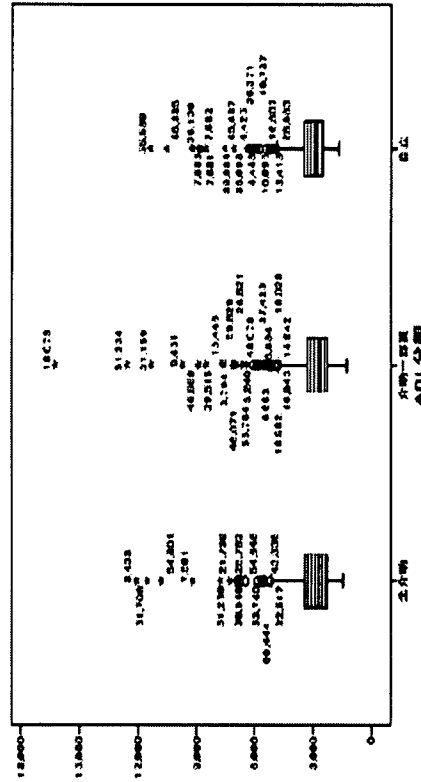
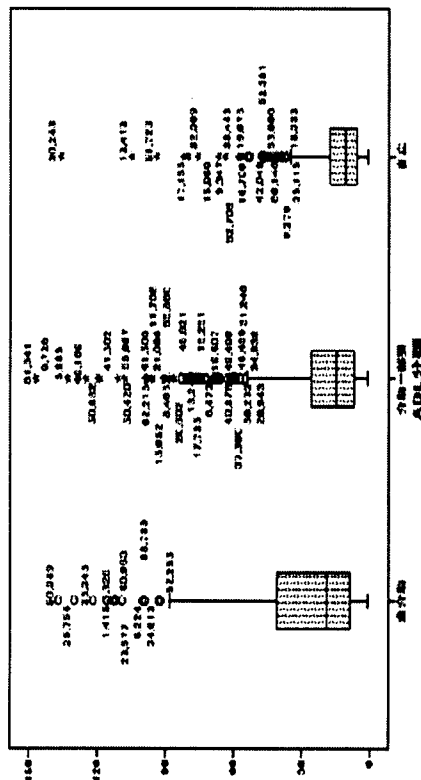
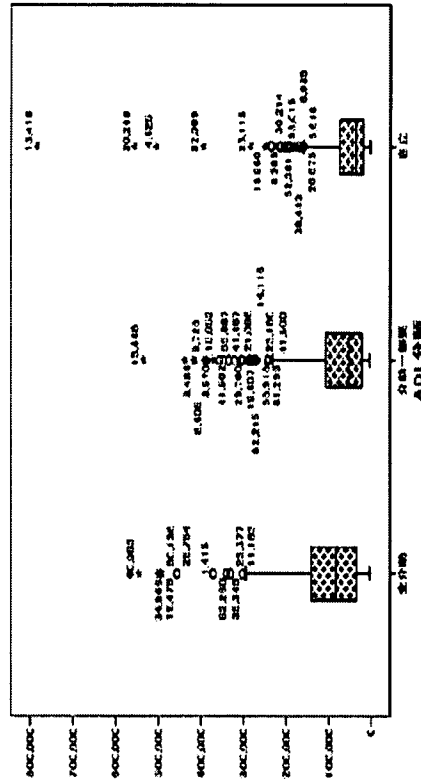
# 図B群(救急車搬送)



# 图B群(喫煙係数)

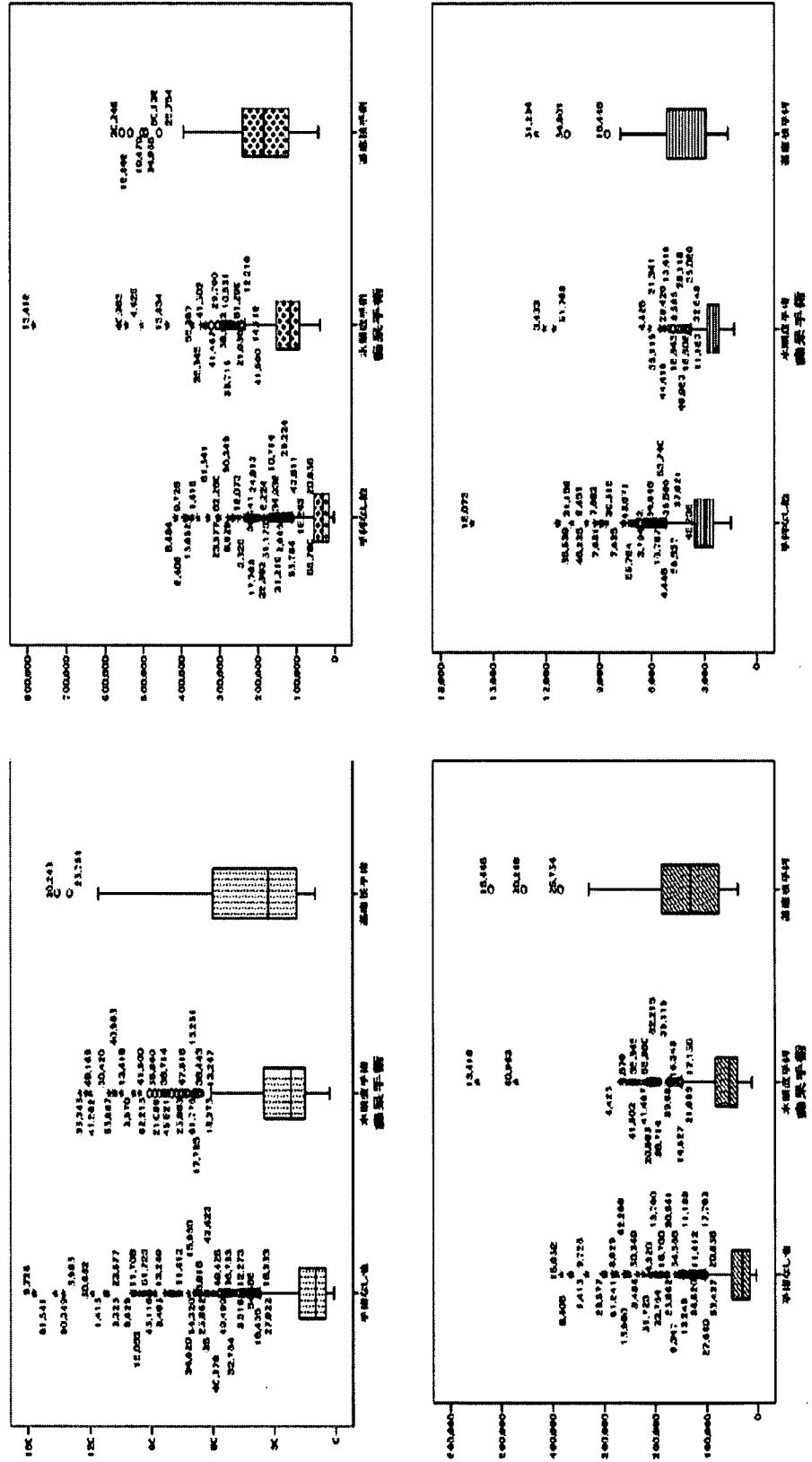


# 図B群(ADL)

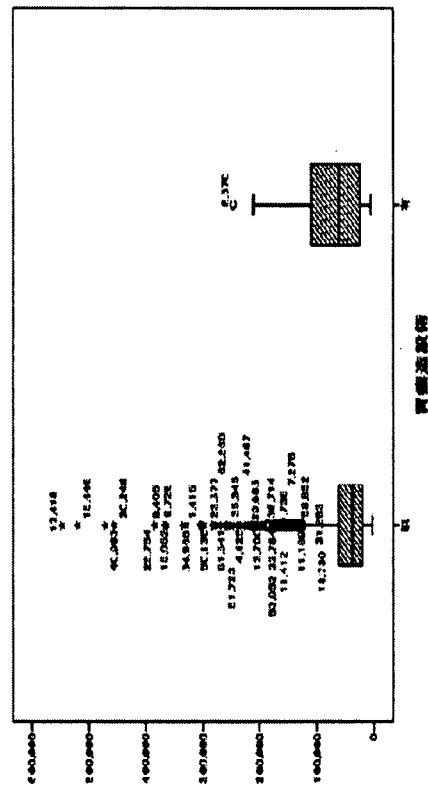
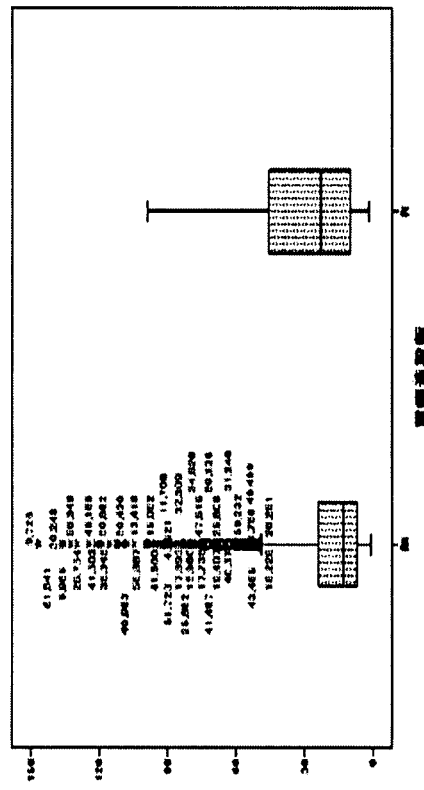
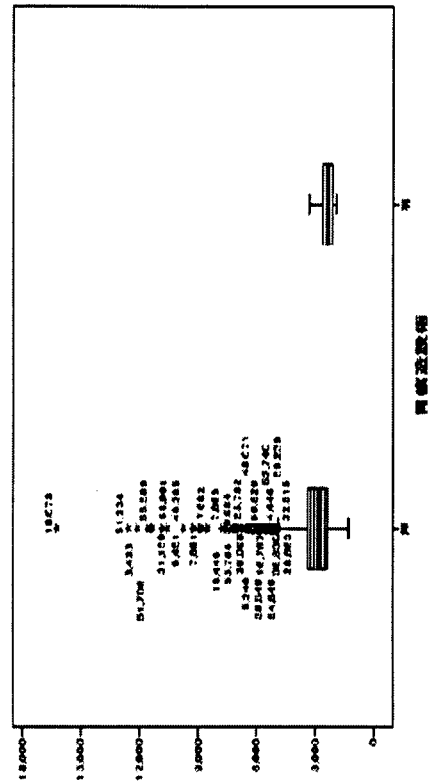
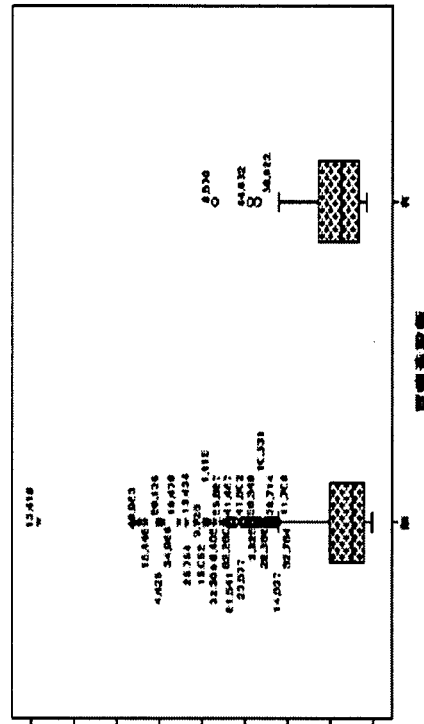




# 図B群(手術)

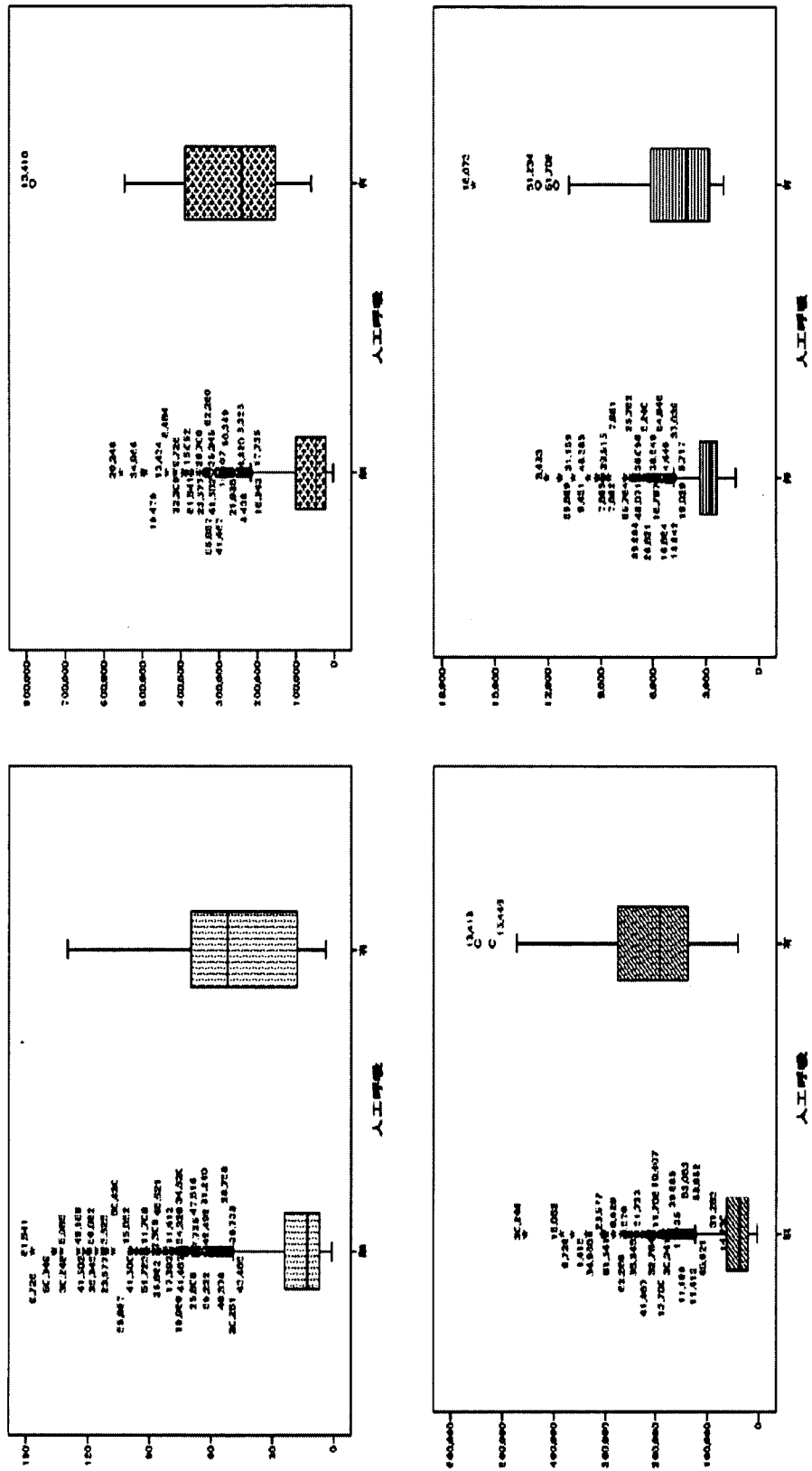


# 図B群(胃瘦造設)

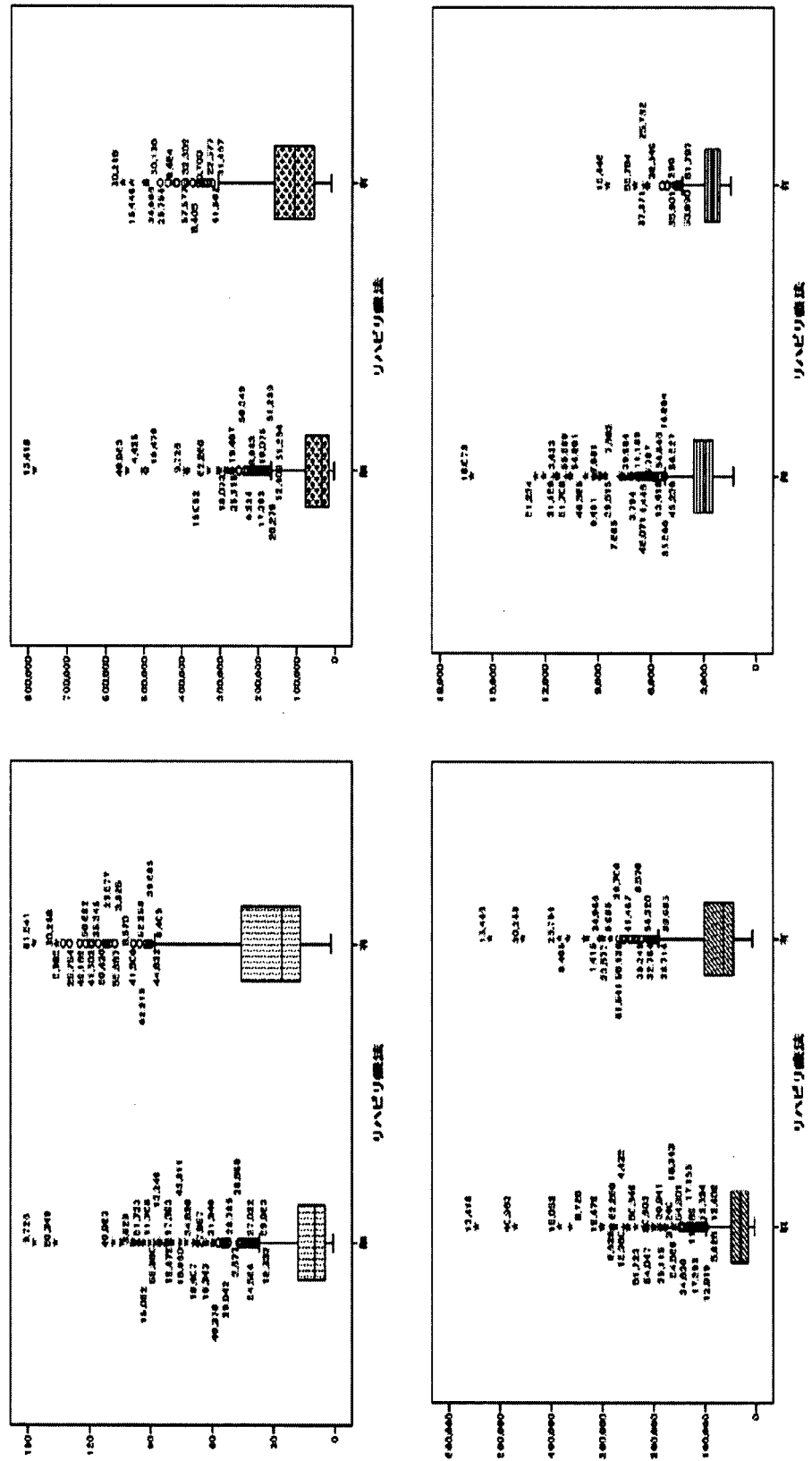




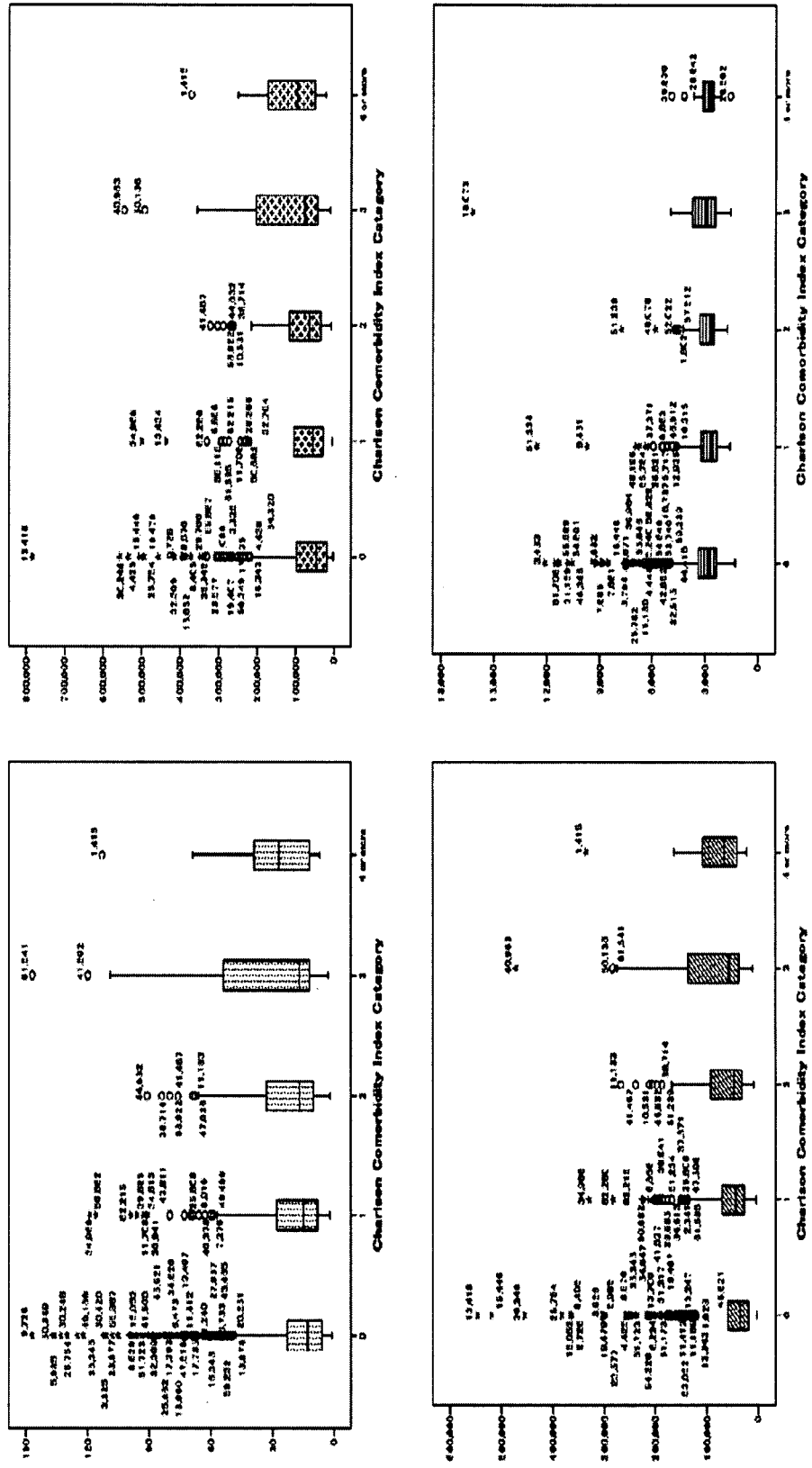
# 図B群(人工呼吸)



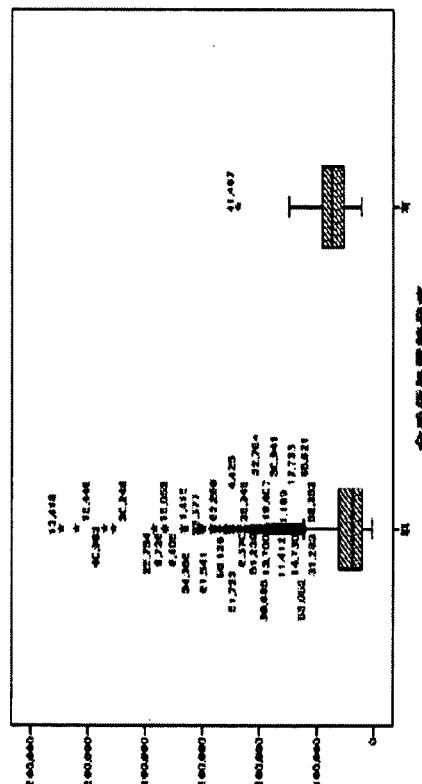
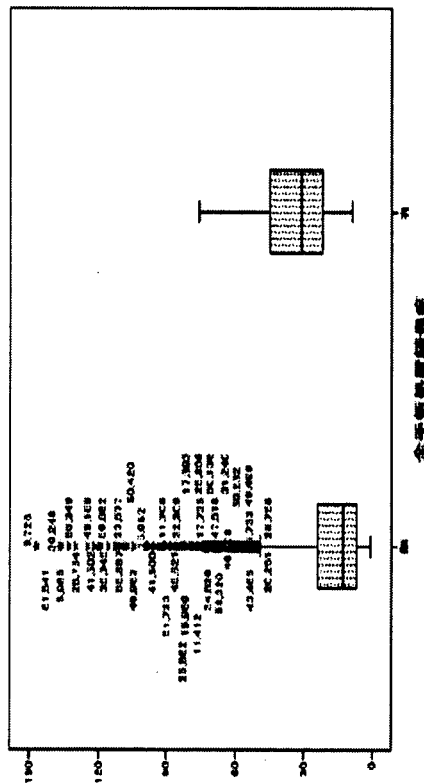
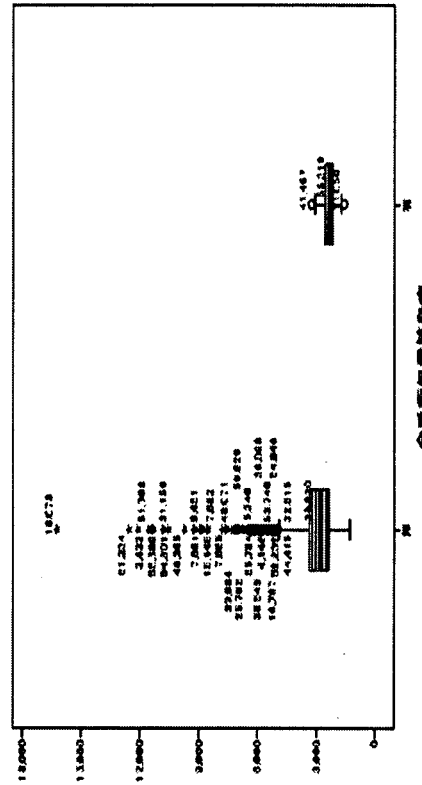
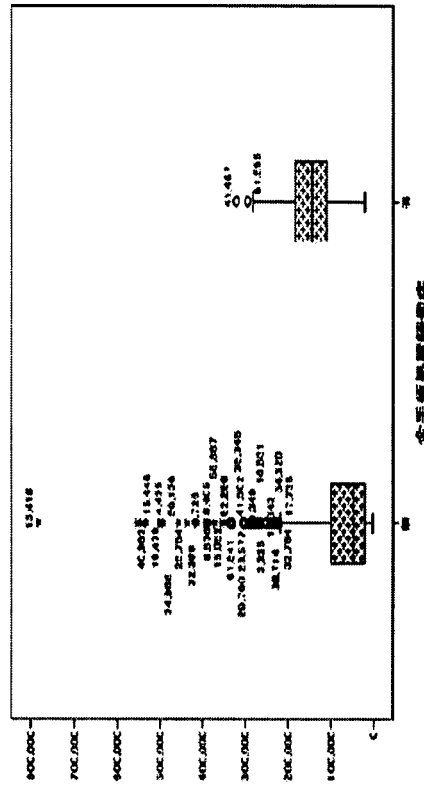
# 図B群(リハビリ)



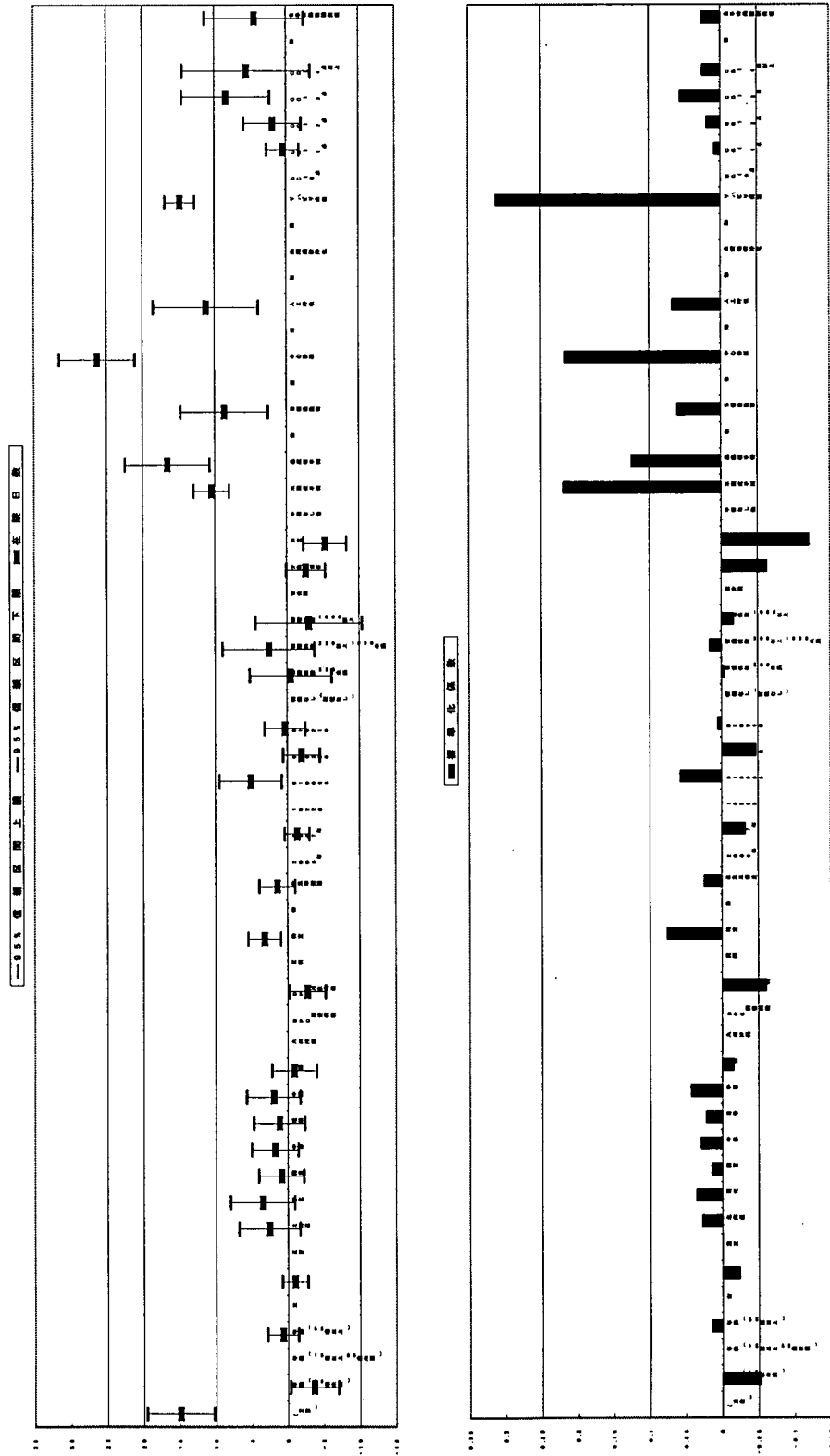
# 図B群 (Charlson Comorbidity Index)



# 図B群(手術関連連続発症)

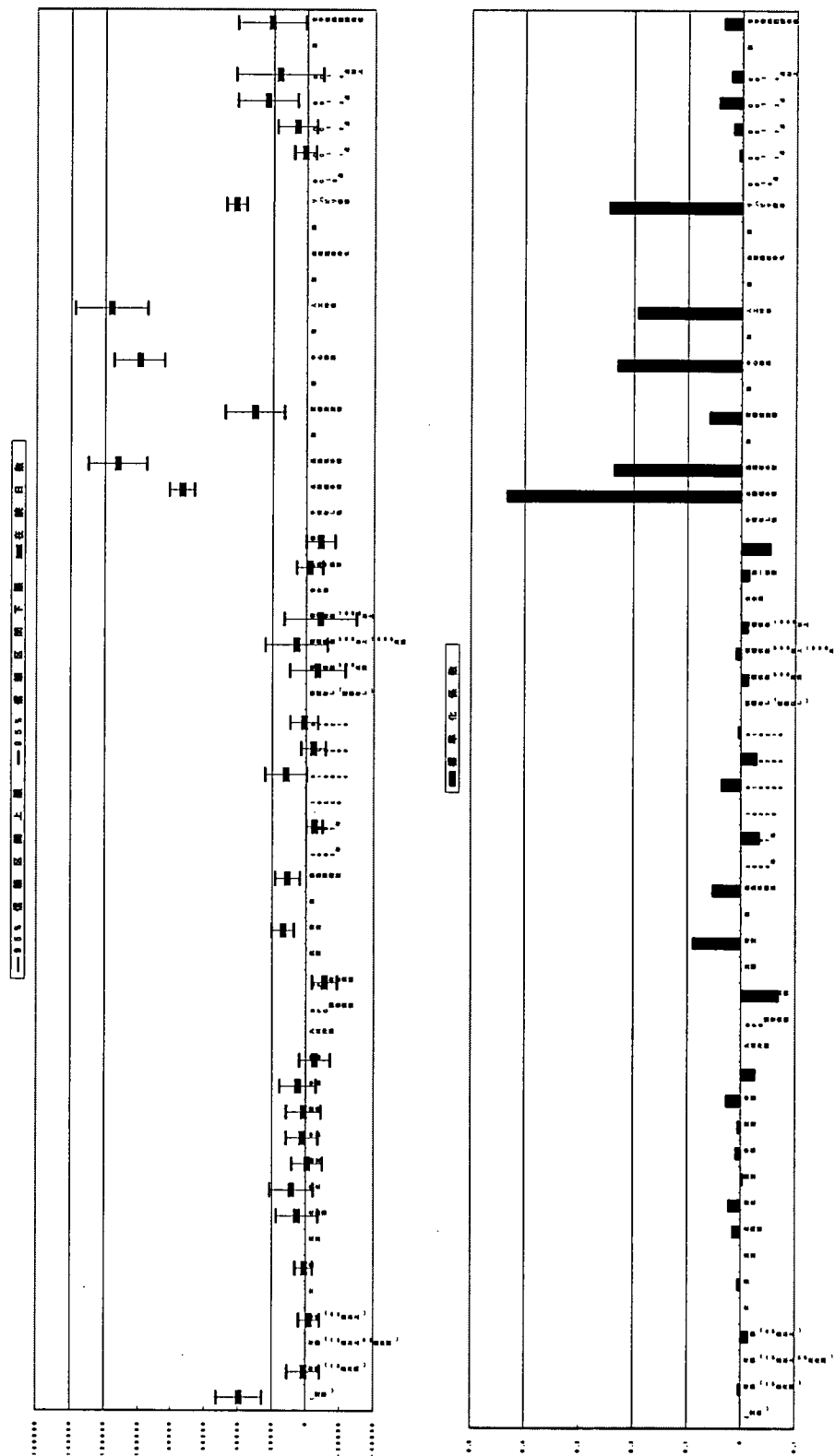


# 图C群(在院日数分析)

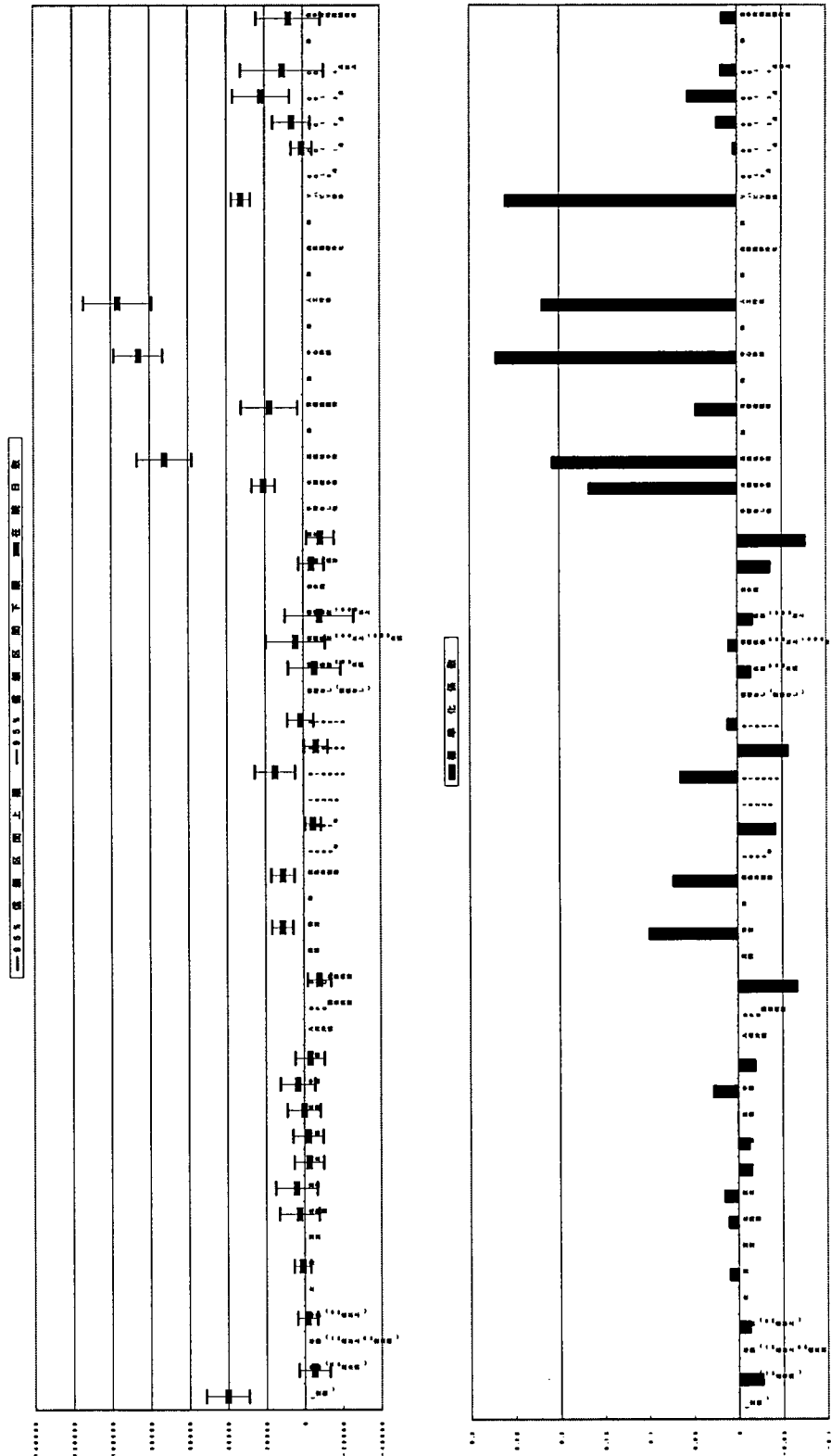




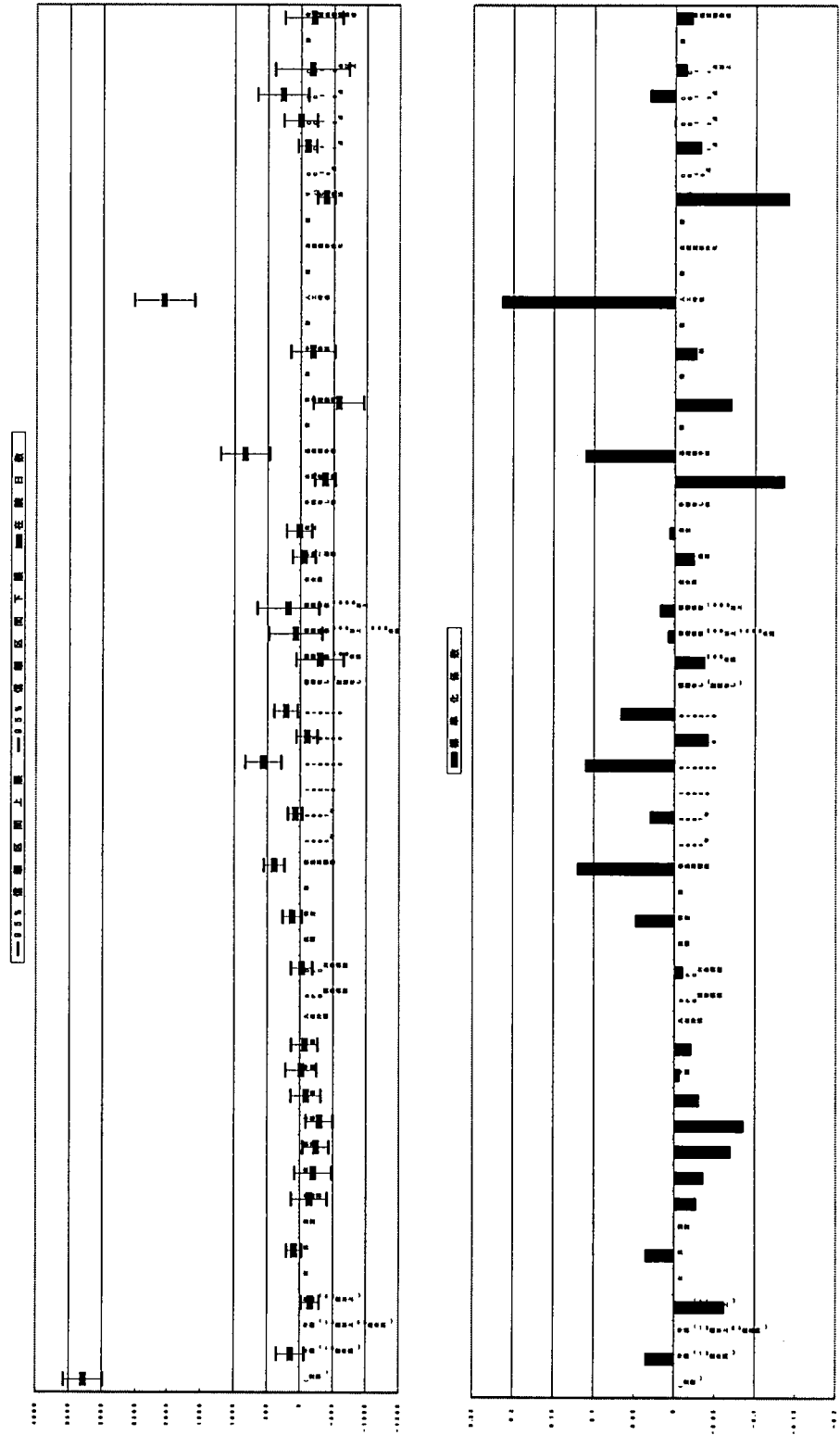
# 図C群(総点数分析)



# 图C群(包括範圍總点数分析)



# 图C群(包括範圍一日点数分析)



平成 18 年度厚生科学研究費補助金（政策科学推進研究事業）  
診断群分類を活用した医療サービスのコスト推計に関する調査研究  
研究報告書

診断群分類の精緻化と妥当性検証（分類簡素化の視点から）

MDC1 不随意運動疾患関連 DPC

『010160 パーキンソン病』、『010170 基底核等の変性疾患』、『010180 不随意運動』、『010190 遺伝性運動失調症』、『010280 ジストニー、筋無力症』

報告者

桑原 一彰 九州大学大学院医学研究院 医療経営管理学講座 分担研究者  
久富 洋子 アイネット・システムズ 株式会社 研究協力者

診断群分類（DPC）の問題点を継続的に分析し、より妥当な評価体制につなげていくことは肝要である。『臨床分類としての診断群分類』は、病理と部位からなる傷病名と、それに特異な手術処置の組み合わせからなる分類である。それを支払い分類として管理可能なものに簡素化する場合、資源投入量のばらつきを説明するのとして、何が一番大きな因子（疾患なのか、疾患に投入される治療なのか）なのかを模索することは必須である。

今回、MDC1 不随意運動疾患関連 DPC 『010160 パーキンソン病』、『010170 基底核等の変性疾患』、『010180 不随意運動』、『010190 遺伝性運動失調症』、『010280 ジストニー、筋無力症』を選択し、その分類の妥当性検証を、平成 16、17 年度 7 月から 10 月にかけて収集された 2 年間の 4 ヶ月データをもとに行った。

在院日数、総点数、包括範囲総点数、包括範囲一日点数において中心静脈栄養、人工呼吸・透析、リハビリに配慮を要することが判明した。臨床分類としての診断群分類を保ちながら、支払い分類方法を妥当に簡素化・効率化する観点において、臨床疾患群としての基本 DPC の統合はまず妥当であろう。

#### A. 研究背景と目的

平成 15 年度 4 月より特定機能病院において順次支払いに導入された診断群分類（DPC）は、保険医療に精通する臨床専門科集団の意見を参考にしながら、翌 16 年、18 年度にも見直しが行われた。その間、調査対象病院も増加し、平成 18 年 12 月時点で DPC 対象病院 360 施設、DPC 準備病院 371 施設となっている。一方、厚生労働省は診断群分

類の支払い評価分類としての妥当性検証と、診断群分類の簡素化に関して検討している。

そもそも診断群分類には『臨床的分類』としての意味合いと、『支払い評価分類』としての意味を持たせることが可能である。前者は部位と病理の観点に立ち臨床家に親和性を持たせることで、日常診療行為の評価指標にできる可能性がある。後者はたとえ前者の臨床的分類は異なっても、現在の臨床的分類に、